



米国パビリオンの建築とデザイン

米国パビリオンの外観は、世界的な名声と受賞歴を誇る、トレイハン・アーキテクト社によってデザインされ、ESグローバル社とアルケミー社が施工を手掛けました。存在感のある外観は、三角形の木造建物2棟が並び、その上にはライトアップされたキューブが浮かぶように設計されています。建物の壁面に備えられた2面の巨大なLEDスクリーンには、米国の名所の数々が映し出され、息を呑むような美しいディスプレイを演出します。この外観は、まるで2棟の建物が人々を迎え入れるべく両腕を広げているかのような作りになっており、来場者を中へと歓迎する意図でデザインされています。木造の地面はわずかにカーブがかかっており、パビリオンへと入場していく際に渡る橋をイメージしています。

米国パビリオンのキューブは夜には柔らかな光を放ち、LEDスクリーンは来場者の足を止め、映像に見入ったり、音楽に聞き入ったり、味わったり中を見て周ったりしたくなるような仕掛けになっています。キューブの下を抜けると、その先には吹き抜けが美しい中庭が広がり、活気に溢れたパフォーマンスステージが登場します。ステージでのミュージカルや文化パフォーマンス、またレストランでの食事を楽しんだあとは、米国原産の植物や芝が植えられたアメリカ式庭園を散策することができます。

米国パビリオンを上空から俯瞰すると、2棟の三角形の建物がわずかな隙間を挟んでほとんど触れ合うように並んでいます。その間には大きくもシンプルで優雅なキューブが備えられ、来場者が思わず中には何があるんだろうと好奇心をそそられるような作りになっています。こうしたしっかりとした幾何学的なフォルムは、ゆったりとした流線的な庭園との対比を演出します。

また米国パビリオンでは、美しく洗練されたプライベートのミーティングルームやイベントスペースも予約制でご利用可能となっており、イベント運営やケータリングのサービスのオプションもご提供しています。パビリオン内のプライベートスペースには、ひとつひとつキュレーションされたアメリカのアーティストたちの芸術作品が展示されています。

約3500平方メートルの敷地内に2階建てを有する米国パビリオンの外観は、およそ3000平方メートルの広さを誇ります。パビリオンは「エンパワーリングゾーン」内に位置し、Osaka Metro 中央線の夢洲駅に隣接する東ゲートから最も近くなっています。